ナンバリング	授業科目名(科目の英文名)	区分・【新主題】/（分野）	授業形式
E1121019	指揮法実習 (Conducting　)		対面

必修選択	単位	対象年次	学部	学期	曜・限	主に使用する言語	その他に使用する言語	担当形態
必修	1	2	教育学部 ≪令和２年度以降入学生用≫	後学期	水1	日本語		単独

担当教員	氏名　森口　真司 E-mail　　内線
授業の概要	多人数による合奏・合唱を指揮するための基礎的な技術の解説から始め、さらに進んだ表現方法や合奏・合唱の指導方法などについても研究する。 あわせて映像資料も参考にしながら指揮者というものに対する総合的理解を深める。

具体的な到達目標	DP等の対応(別表参照)	1	2	3	4	5	6	7
目標1	正確なテンポ感とそれを表現する打法の習得できる	○						
目標2	指揮の正確な図形の習得できる	○						
目標3	様々な表現（クレッシェンド、リタルダンド、フェルマータ等）方法の習得できる	○						
目標4	効果的な練習方法の理解できる	○		○				
目標5								
目標6								
目標7								
目標8								
目標9								
目標10								
	各DPへの関連度（計10）	8		2				

授業の内容	
1	ガイダンス・指揮とは何か？
2	基本１　指揮の原理・加速減速
3	基本２　直線的な動き
4	基本３　曲線的な動き
5	基本４　第４回までのまとめ
6	応用１　強弱の変化
7	応用２　フェルマータ
8	応用３　テンポ・拍子の変化
9	応用４　その他の表情
10	応用５　６拍子・３拍子の１つ振り
11	実践１　合唱を実際に指揮してみる１
12	実践２　合唱を実際に指揮してみる２
13	実践３　試験曲の解説１
14	実践４　試験曲の解説２
15	実践５　試験曲の解説３

アクティブラーニング				
	A:知識の定着・確認		11・12回目の授業時、実際に合唱（合奏）を指揮・指導し、学生相互間で問題点を発見・指摘し、論ずる。	その他の工夫
	B:意見の表現・交換			
	C:応用志向	○		
	D:知識の活用・創造			

授業時間外学修の内容と想定時間		
	準備学修	次回課題曲の読譜。可能なら実際にピアノで弾いてみる。(23h)
	事後学修	週２～３回１５分程度、課題の通り実際に身体を動かす。(22h)
	想定時間合計	45

教科書	授業時に配布
参考書	斎藤秀雄「指揮法教程」2010年 音楽之友社 ISBN978-4276141100 高階正光「指揮法入門」2001年 音楽之友社 ISBN978-4276141032 山田一雄「指揮の技法」1998年 音楽之友社 ISBN978-4276141063

成績評価の方法及び評価割合	評価方法	割合	目標1	目標2	目標3	目標4	目標5	目標6	目標7	目標8	目標9	目標10
	定期試験	80%	○	○	○							
	アクティブラーニングにおける取り組む姿勢・成果	20%				○						

注意事項	
備考	
リンク	
	URL